

ヌエック事業における女性のエンパワーメント 支援への取り組み

高橋 由紀

「女性のエンパワーメント」は、平成7〔1995〕年の第4回世界女性会議（北京）の時のキーワードだったが、ヌエックでもこの10年間、エンパワーメントを推進するために様々な事業を実施してきた。調査研究・情報・交流・研修の4つの側面から、女性のエンパワーメント支援のための取り組みについて概観してみたい。

〈調査研究事業〉

「女性学講座」昭和55〔1980〕年度～平成7〔1995〕年度

「女性学講座」は、全国各地で形成されている自主的学習グループにネットワーク形成の場を提供しようという目的で、昭和55〔1980〕年に始められた。平成7〔1995〕年度には、テーマを「変革への『力』——女たちのエンパワーメント——」と設定し、女性の連携によるエンパワーメントの推進を明確に打ち出している。基調講演「女たちのエンパワーメント——カイロ・北京を超えて——」、パネルディスカッション「エンパワーメントの理論づくりに向けて」などのプログラムを行った。「“よりよい社会を築くために女たちが、責任を持った主体となって、一人一人が連帯して関わっていくこと”」がエンパワーメントであるというメッセージが発信された。

「開発と女性に関する文化横断的調査研究」平成6〔1994〕年度～平成10〔1998〕年度

北京女性会議の前年である平成6〔1994〕年度には、開発途上国の女性のエンパワーメントをテーマとした調査研究に5カ年計画で着手した。アジア地域における「開発と女性WID」プロジェクトがもたらす影響および女性政策をジェンダー分析し、女性が政治的・経済的・社会的状況の変革に主体的にかかわりながら自立する力を身につける（エンパワーメント）ための具体的な戦略を構築することを研究目的としていた。

女性のエンパワーメントは個人や女性の活動グループが目ざすべき理念とみなすことによって、現実を客観視しにくくなることもある。そこで、この語を「分析概念」として中立的に使うことを提案した。また、エンパワーメントの評価・測定は、活動グループと個人の両方に対して行う必要があることを明らかにした。

（平成8〔1996〕年度～平成10年〔1998〕年度文部省補助金 国際学術研究「アジアにおける〈開発と女性〉に関する調査研究」）

「女性のエンパワーメントのための生涯学習拡充方策に関する調査研究」平成12〔2000〕年度～平成14〔2002〕年度

女性の生涯学習とエンパワーメントとの関連をテーマとして、平成12〔2000〕年度には日韓比較調査、平成13〔2001〕年度には日本・韓国・ノルウェー・アメリカの四カ国比較研究に着手し、国際比較することによって生涯学習を通じた女性のエンパワーメントの実態と課題について明確化しようとした。

「女性のエンパワーメントのための生涯学習拡充方策に関する調査研究」の研究目的は、日韓の生涯学習機関およびそこで学ぶ女性学習者の実態を解明し、女性の生涯学習を通じたエンパワーメント促進方策を明確にすることであった。

エンパワーメントを、「学習によって個人の考え方や態度が変化し、何らかの力を身につけること」と捉えた。そして、「主体性が高まった」というような「《内面的な変化》としてのエンパワーメント」と、生涯学習の成果

として職業に就いたというような「《社会的な変化》としてのエンパワーメント」との両面から考察した。日本の対象者にとっては、生涯学習によって得る個人的な達成感強いが、社会に参画するという意味でのエンパワーメントを達成する傾向が低いことが明らかになった。

(平成13〔2001〕年度～平成15〔2003〕年度文部科学省科学研究費補助金研究 基盤研究(B)「女性の生涯学習に関する日韓比較研究」)

「女性の学習関心と学習行動に関する国際比較研究」平成13〔2001〕年度～平成15〔2003〕年度

日本・韓国・アメリカ・ノルウェーの生涯学習政策および男女学習者の学習実態を解明することを目的に行われ、女性の生涯学習についての文化的な相違点と共通点が明らかになった。他の3カ国と比較して、日本の学習者は学習が自分の力をつけることにとどまり、必ずしも職業や社会参画に結びついていないこと、日韓の学習者では受講内容にジェンダー差がみられ、女性は趣味教養的な講座に、男性は仕事や資格につながる講座に参加する傾向のあることが把握できた。

「国立女性教育会館研究紀要」平成9〔1997〕年度～現在

研究成果の掲載を目的として、毎年1冊ずつ作成している。平成9〔1997〕年10月に開館20周年を記念して創刊号が刊行されたが、「女性のエンパワーメント」という特集テーマを設定し、「エンパワーメントと女性の教育・学習——国の婦人教育施策の系譜からみる——」(志熊敦子)、「開発・ジェンダー・エンパワーメント」(村松安子)など、エンパワーメントをキーワードとした論文を掲載している。

本号(9号)は、「エンパワーメントのための生涯学習」をテーマに編集し、エンパワーメントをキーワードとする依頼論文2本、実践事例研究2本を掲載している。エンパワーメントは女性の連帯を強め、活動を推進するキーワードとして用いられてきたが、男性にとってのエンパワーメントについて考察する論文も本誌には掲載し、男女共同参画の推進にとっては、男女双方のエンパワーメントが必要であることを示そうとした。

〈情報事業〉

ヌエックでは、国内外の女性と家族に関する情報および資料を収集・整理し、提供しているが、その数は図書(和洋書)81,974点、雑誌(和洋)3,196誌、地方行政資料21,615点、新聞切り抜き178,468点にわたる。

「文献情報データベース」を使い、ヌエック所蔵文献中「エンパワーメント」をキーワードとするものを検索すると、図書252点、雑誌記事504点、地方行政資料45点、新聞記事473点が所蔵されている。新聞記事を見ると、エンパワーメントに関連する一番古い記事は平成3〔1991〕年からのものである。平成6〔1994〕年に国際人口開発会議がカイロで開催されたが、それを機にエンパワーメントをキーワードとする記事が増え、翌平成7〔1995〕年にはさらに記事が大幅に増えていることがわかる。

昭和59〔1984〕年から、女性と家族に関連する情報を検索する際に用いられる用語を整理し、体系化した用語集として「婦人教育シソーラス」を開発してきたが、その後改訂を重ね、平成13〔2001〕年度には「女性情報シソーラス」としてデータベース化した。このシソーラスで「エンパワーメント」を引いてみると、「思想・理論・運動」の分野に属する用語であり、同義語として「エンパワメント」、関連語として「社会参加」、「主体性」、「女性リーダー」、「自立」、「政治参加」、「マイクロ・クレジット」、「女性学教育」の7語が挙げられている。ヌエックの文献情報データベースを使って検索する際に、シソーラス機能を使えば、上記の関連語を含めて検索を行うため、キーワード一語による検索よりも一層多くの情報を得ることができる。

開館以来蓄積されてきた豊富な情報および、会館で開発している情報検索システムによって、様々な角度からエンパワーメントについて調べることが可能となっている。

〈交流事業〉

調査研究事業として行っていた女性学講座は、平成8〔1996〕年度から「女性学・ジェンダー研究フォーラ



ム」という交流事業として実施されるようになった。全国各地の女性の“研究”“実践”“教育”をつなぐ場の提供を趣旨に、平成8〔1996〕年度～平成12〔2000〕年度までは、テーマを「女性のエンパワーメントと女性学・ジェンダー研究——新しい価値の創造」として行われた。平成12〔2000〕年度には、国際的なネットワーク形成の場を提供することを目的に、「女性学・ジェンダー研究国際フォーラム」として実施された。平成13〔2001〕年度以降も、研究と実践をつなぐ機会として継続的に開催されている。

開館20周年の平成9〔1997〕年度には、会館事業の総合テーマを「エンパワーメントは21世紀への合言葉——新たなる共生をめざして——」と設定し、記念事業「女性の交流フェスティバル」や、「女性と生涯学習国際フォーラム：21世紀に向けての女性のネットワーク」を実施し、交流事業のキーワードとしてエンパワーメントを積極的に用いている。

国際交流事業は、昭和56〔1981〕年度から継続的に行っている。

昭和56〔1981〕年度の国際交流フォーラムは、「女性の教育・学習とエンパワーメント」とし、女性教育の分野における国際的なネットワーク形成の機会とすることを目的として行った。

平成10〔1998〕年度、平成11〔1999〕年度には、「女性のエンパワーメントの推進に資するとともに、国内外のネットワークの形成を図ることを目的」に「ヌエック（国立女性教育会館）国際フォーラム」を実施した。平成11〔1999〕年度は総合テーマである「エンパワーメントは21世紀への合言葉——新たなる共生をめざして——」をフォーラムのテーマとして掲げ、政治、職業、教育の3つの分野における女性のエンパワーメントについて討議した。

平成13〔2001〕年度～平成15〔2003〕年度までは、「女性情報国際フォーラム」を実施し、平成15〔2003〕年度のテーマを「女性情報のグローバルなネットワークをめざして——女性情報によるエンパワーメント戦略の展望と提言——」とし、情報を活動の力とすることによって女性がエンパワーメントしていく具体的な方策について協議がなされた。

平成16〔2004〕年度には、「女性の生涯学習国際フォーラム」を開催し、「生涯学習とそれぞれの『エンパワーメント』——日本、韓国、ノルウェー、アメリカの国際比較調査から——」というタイトルで、前述の調査研究「女性の学習関心と学習行動に関する国際比較研究」の成果にもとづいて国際フォーラムを実施した。

〈研修事業〉

平成8〔1996〕年度以降、研修事業のプログラムの中にもエンパワーメントをキーワードとする講義等が導入されるようになった。たとえば、女性関連施設職員を対象とした研修は、昭和52（1977）年の開館以来現在まで名称を変えながら行われてきたが、平成8〔1996〕年度の「婦人教育施設職員のためのセミナー」からは、プログラム内容にエンパワーメントという要素が入るようになってきている。たとえば、女性のエンパワーメントの重要性を指摘する講義、エンパワーメントのきっかけをつくるための学習プログラムの企画・立案ワークショップなどが組み込まれている。

平成13〔2001〕年度からは、行政担当者や女性教育・家庭教育のリーダーを対象とした「アドバンストコース」が、「女性のエンパワーメント支援セミナー」となり、「女性のエンパワーメント（力をつけること）」を支援する立場にある行政担当者やグループのリーダーを対象とした研修として行われるようになった（定員100名）。講義・ワークショップ・討議を組み合わせ、女性のエンパワーメントを支援するための事業の企画・立案、運営力を磨くことを目的に研修を行っている。

会館では以上のように、調査研究・情報・交流・研修の4つの側面から女性のエンパワーメントを支援するために事業を展開してきた。北京会議以降の10年間、エンパワーメントとはどんなものなのか、どのようにして女性のエンパワーメントを推進していけばいいのかなど、調査研究を通じてその探求を深め、個々人が内なる力に気づき、社会に参画していく力をつちかうための学習を支援するために研修を行い、女性達がネットワークしつつエンパワーメントするための機会・情報を提供してきた。



男女共同参画社会の形成を推進するためには、今後とも女性のエンパワーメントとその支援が重要であるが、「自分の内なる力に気づき、発揮できるようになる」という意味でのエンパワーメントという考え方を広げ、男女がともに共同参画社会を推進していくための力をつちかうための支援を行っていきたいと考えている。

〈参考文献・資料〉(すべてヌエックから刊行)

平成7年度～平成16年度『国立女性教育会館(ヌエック)主催事業実施報告書』1996～2005年(各年1冊ずつ刊行)

『目で見る10年のあゆみ』1987年

『目で見る20年のあゆみ』1997年

『国立婦人教育会館研究紀要』創刊号、1997年

『女性のエンパワーメントと開発——タイ・ネパール調査から——』2000年

『女性のエンパワーメントのための生涯学習拡充方策に関する調査研究報告書』2003年

『女性の生涯学習に関する日韓比較研究報告書——女性のエンパワーメントと「学び」——』2004年

『女性の生涯学習とエンパワーメント——日本・韓国・ノルウェー・アメリカの4ヶ国比較調査から——』2004年

(たかはし・ゆき 国立女性教育会館研究国際室研究員)